

公益社団法人宇都宮青年会議所  
2015年度 第1回 常任理事会議事録

日 時：2015年 1月13日（火）19：00～22：00

場 所：コンセーレ JCルーム

出席者：

- （ 理 事 長 ）：須山(敬称省略 以下同)  
（ 副 理 事 長 ）：澤畑、廣田、太城、中島  
（ 専 務 理 事 ）：金  
（ 監 事 ）：篠崎、安野  
（ 担 当 常 任 理 事 ）：羽石、飯野、鈴木  
（ 日 本 J C 関 係 特 別 委 員 長 ）：亀井  
（ 法 令 会 計 審 査 局 局 長 ）：豊崎  
（ 事 務 局 長 ）：飯沼

1. 開会宣言 <金>(役職名省略 以下同)
2. JCIクリード唱和 <鈴木>
3. JCIミッション並びにJCIビジョン唱和 <羽石>
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和 <飯野>
5. 関東地区宣言唱和 <豊崎>
6. 出席者の確認 <飯沼>
7. 議事録作人の指名 議事録 <総務委員会>
8. 前回議事録の確認 <金>
9. 議題並びに資料の確認 <飯沼>
10. 2015年度理事長挨拶 <須山>

第1回目の常任理事会に、多くのメンバーにお集まりいただきましてありがとうございます。また、渉外委員会、総務委員会の皆様には設営をしていただきありがとうございます。年があげまして委員会のほうもスタートしていることと思います。常任理事会の話なのですが、私が入会した頃の常任、副理事長とか理事長はどのような感じだったのかを思い出してみたのですが、とおくてこわい存在でした。一挙手一投足に気をつけていたものでした。人財育成の年ということで育成の方法はいろいろあると思うのです

けども、皆様には愛情をもって厳しく接していただきたいなと思います。去年の最期の予定者理事会で福田治久先輩も体験談を交えていわれていましたけども、まさにそのとおりだなと感じましたので、常任の皆様には繰り返しの話になりますがお伝えさせていただきます。委員長寄りになってしまっただけで、厳しい意見がいえなくなってしまうのかなとお思うのですね。一步、二歩くらい高い視点で、この事業がうまくいくのかな、例会に対しての予算、考え方などが適合しているのかな、という視点で是非とも指導をしていただきたいなと思っています。委員会において、委員長と肩を並べてしまうと、委員長が2人いる委員会となってしまう可能性もあります。駄目なものは駄目と強くいつてあげないと委員会のためになりませんし、最終的に理事会や正副で駄目となったときに常任がよいつていつたとか、こじれてくると思うのですね。なんとなくいけるかな、と思ったことは大抵駄目ですし、ちょっとでも気になる部分は細かく伝えてあげるべきだと思います。最終的に理事会メンバー、準理事構成メンバーまでいれると40名ちかい目で議案をチェックするわけですから、細かい部分まで指摘はされます。それで精度が高まってくると思いますので、あらかじめ駄目なところはつぶしておいて欲しいと思います。

話はかわりますが、今年は新しいことがスタートしたと思っています。理事会構成メンバー、準理事構成メンバーも含めて40名近いメンバーをいれさせていただきました。2月と9月に公開理事会というものをさせていただこうかとも思っております。これは理事会がフォロワーメンバーからすると、とおいつて思っていますので、常任理事の皆様にはご協力をいただいて、理事会のなかで合議をして例会、事業が決まいつていく過程を是非ともみせてあげたいと思っています。また拡大ポスター、リーフレットというものも会員拡大特別委員会を中心に作成をしております。今年はシニアとの交流をふかめるじゃがいもゴルフコンペもやりますし、またメンバーだけでやるポテトクラブもやりたいなと思いつておりますので、是非とも練習をしておいつていただければと思います。そしてなによりも全国大会にふみだしている、まっただ中であります。現在の段階では栃木ブロック内の審議までいただいつており、明日、関東地区内の役員会でも審議をいただく予定であります。ただただかどうかはやってみなければわかりませんが、最善はつきたいと思いつますし、必ずや全会一致で協力を取り付けてまいりたいと思いつておりますので、何卒よろしくお願いつたします。

拡大について1点だけふれさせていただきたいと思いつます。1月ももう、13日になりますが、予定者の段階から動いつていただいつていますが、常任理事の皆様には委員会メンバー、理事メンバーそして、フォロワーメンバーに声掛けをお願いしたいと思いつています。小瀧特別委員長からも常任理事の皆様には声掛けをお願いしたいと思いつています。拡大は全員で取り組まなければならぬ案件だと思いつます。全体で盛り上げていきたいと思いつています。なぜ拡大なのかということは皆様おわかりかと思いつますが、大きな運動の展開をしていかなければいけない、我々の組織を維持するためにも人が必要だと思いつますのでご理解いただければと思いつます。是非とも行動につなげていただきたいと、お願いつします。

#### 1.1. 直前理事長挨拶

第48代理事長村上欠席のため、割愛

#### 1.2. 役員報告

<飯沼> 京都会議の案内。

<鈴木> 春渡祭の案内。

<豊崎> 年会費の入金の案内。

<金> 上程について、スケジュールの確認についての依頼。

### 13. 協議事項

協-01 2月 市長例会 開催計画並びに予算（案）について  
協議資料に基づき、飯野常任理事より資料の読み上げ。

<羽石> シニアへの案内文の発送方法と発送する意味を教えてくださいという質問と、こちらは意見なのですが、うつのみやV-PLANの前期がどのような基本計画になっていて、それをもとに後期がどのように策定されたかを説明していただけると、メンバーのまちづくりに対する当事者意識が高まるのではないかと思います。

<飯野> シニアへの案内につきましては、訃報等で流すFAXと同じラインを使用し  
てご案内をさせていただき予定となっております。V-PLANの説明につきま  
してはご意見として受け止めさせていただきます。

<飯沼> 細かい部分なのですが、パネルディスカッションのシナリオのところ  
で上島先輩の講演がない前提で書かれていると思いますので、そこをいれた  
ほうがよろしいかと思います。あと市長へのお礼状なのですが、9行目の  
またというところの上のところだけスペースがないのはなぜかな、と。細  
かいところですが以上です。

<飯野> パネルディスカッションのところにつきましては、修正をさせていただきます。  
市長へのお礼状につきましても修正をさせていただきます。

<亀井> 例会タイムスケジュールのところなのですが、3分間スピーチの  
ところの所要時間が時間のところとずれていますので表記を修正していただ  
きたいと思います。あとアンケートのところなのですが、全国大会招致の意  
義を理解することできたか確認するとありますが、アンケート自体には全  
国大会招致の意義というのが記載されていないので、そこを説明いただ  
きたいと思います。

<飯野> タイムスケジュールの時間の表記につきましてはもう一度精査をしてし  
っかりとあわせていきたいと思います。アンケートの全国大会の件につ  
きましては削除のかたちですすめさせていただきます。

<金> 市長側との打ち合わせはどの程度進んでいるのか皆様にお知らせ  
いただければと思います。

<飯野> 今月の27日の12時より市長と昼食をかねて、打ち合わせをさ  
せていただく予定となっておりますので、その場でしっかりと細かいところ  
まで打ち合

わせをしていきたいと思ひます。

<須山> さきほどの全国大会の件なのですけども、日本J Cとの打ち合わせの中であまり色濃くだしてくるなどの話がでました。上島先輩は影響力がありすぎるということで、全国大会の話にふれてしまうと上島先輩が、歴代会頭がきたから全国大会がとれたのではないかと、とれなかったのではないかと。つまり、そういうちからがおよんだのではないかとということで、そこはあまり色をださない方がよろしいのでは、というシニアクラブからのお達しがありましたのでうすめにしたということです。気になったところで席次なのですが、シニアの先輩がくるということなのでそこを考へていただきたいです。また議案には関係はないですが懇親会の場所もどうするか考へていただきたいと思ひます。シナリオの○×クイズについてですが、現状の内容であれば削られた方がよいのではないかとと思ひます。その方がスムーズではないかとも思われます。

協-02 3月 研修例会 開催計画並びに予算(案)について  
協議資料に基づき、羽石常任理事より資料の読み上げ。

<鈴木> 事業目的(対外)のところなのですけども、市民の心の琴線にふれという部分において、委員会としてはどのような観点で心の琴線にふれるとお考へですか。

<羽石> 委員会としては琴線というものを感動、共鳴や感銘ととらえております。そしてそれをどのようなかたちで伝えるかを考へております。葛西氏の講演をとおしてあきらめない心や、感謝の気持ちなど、また地域に対してどのような想いをもっているかだとかを、具体的にふれていただくことによつて、結果として共感や感動、共鳴というものがえられるのではないかと委員会では考へております。

<中島> 検証方法を教へてください。

<羽石> 主にアンケートでの検証を考へております。

<中島> アンケートの2番目に、何事にも自ら行動を起こしていくという意識の変化を感じていただけましたかという項目があるのですけども、検証に対してはこの項目だけだと思われるのですが、これだけで150万の事業の検証をするのか、という話になるのですね。正直、目的がちがうと思ひます。

<羽石> 委員会で精査します。

<鈴木> 参加員数計画についてなのですけども、市民(主に30代から50代)に対してのポスターやチラシの配布先がどのようにリンクしているのかという点と、ポスターやチラシの配布先がどのくらい実際に配布できる可能性があるのかという点を教へてください。

- <羽石> 30代から50代というターゲット設定なのですが、具体的にポスター配布先の設定は人の目に多くふれるところを考えており、その中で特に30代から50代を対象にしています。その理由としては葛西氏と年齢が近いというところで、30代から50代の方が特に共感がえられるのではないかと考えております。ポスターやチラシの配布については、基本的には受け取っていただけることを前提に委員会の中で割り振って配布を考えております。
- <鈴木> 配布先に関しては、ここ何年もJCは必ず受け取ってもらえる配布先というものが絶対にあって、ここは配布しても受け取ってもらえないところというのがデータとして残っていると思うのです。そこを考えたうえで作っている配布先の資料とは思えないので、質問させていただきました。なので、もう一度精査して、さらに葛西氏の講演に重点を置きたいということプラス要素として取り入れた方が、より効果的になると考えます。
- <羽石> 参考にさせていただきます。委員会として実際どこに配布できるかというデータがなくて、去年の11月の例会と過去の研修例会の方をつうじて確認はしたのですが、実際に作った計画と実際に配った結果というのが一致していないところがございますので、そういったところもふまえて、こちらのポスター配布先につきましては全面的に見直しの方かけさせていただきます。
- <澤畑> ビジターの件なのですが、意見の部分では12名になっていて、今回は16名となっておりますがどのような理由ですか。それと各委員会というのは各委員会で呼んでくるということなのですか。これは質問なのですがどのように考えているか、また根拠を教えてください。
- <羽石> ビジターの件なのですが、研修委員会の方から各委員会にお願いをするというかたちだけしか考えられておりませんので、理事会の時までには明確な根拠をだすということと、拡大特別委員会と相談の上で記載させていただきたいと思っております。
- <澤畑> 16名とするのであれば、各委員会に何名とかの記載をするのではなくて、こんなところにポスターを持っていきますよだとか、話をしますよというかたちで、我々の世代の人たちが来てくれる、またビジターになるのではないかな、と思うのです。そういったものを記載してくれた方がよりよいと思うのです。理事長所信にもあるようにみんなで拡大していこうということで、こういった記載に対しても根拠を持っていただきたいと思います。
- <安野> 過去の例会参加者に関してなのですが、資料に載せるときは、住所等は載せないようにしていただきたいと思います。個人情報にあたるので、取り扱いには注意していただきたいと思います。
- <金> 栃テレとトチペを広告媒体に選定した理由というのを、予算もかかっておりますので皆様に教えていただければと思います。

<羽石> 栃テレなのですけども、映像での例会のアピール、ポスターだけでなく委員長の話から視聴者の方にお伝えできるのではないかと考えています。トチペにつきましては、発行部数もそうですし、フリーペーパーというところで気軽に入手できるという点を考えて、選定させていただいております。

<飯野> 参加員数計画のところ、30代から50代とターゲットを絞られたのですが、個人的には中高生などのもっと低い年代も対象にいれていければと思います。学校にポスターを配るだけでも反響はあるかと思うのですが。30代から50代にターゲットを絞ったねらいを教えてくださいたいと思います。

<羽石> 若い世代を選ばなかった理由としては、時期的に3月30日ということで春休みになってしまいますので、理事会での審議が2月25日との関係でポスターを配布してもすぐに春休みになってしまうので、ポスターの掲示が難しいのではと判断いたしました。そういったことで若い世代をのぞいております。

<小瀧> 私も飯野常任と同じ考えなのですけども。葛西氏は10歳からスキーをずっとされていて今日にいたっている方なのですが、そんな葛西氏にまちづくりどうですかと尋ねるのもどうなのかなと思うのですよね。ただ葛西氏に来ていただくのであれば小学生や中学生をつれた親御さんとか、そういった世代に来ていただくと、その子たちが将来まちづくりに関わっていくうえでひとつの契機になると思うのですよね。そういった意味でも、もう少し下の世代のアピールできる手法を教えてくださいたいと思います。

<鈴木> 確認なのですけども、ポスター、チラシなどの配布日程はいつでしょうか。

<羽石> 2月25日から配布を予定しております。

<鈴木> 2月25日だとまだ春休みにははいつてないですよ。これは春休み期間中の例会ですよ。なので、できるだけ早急に学校等々に配布すれば、子どもたちの動員が見込める可能性があると思います。春休み中だから子どもを連れて一緒に行ってみようかという流れにつながる可能性を秘めているのであれば、私は学校に配布するべきであると考えます。

<羽石> 委員会にて検討させていただきます。

<亀井> 外部協力者のところなのですけども、後援者の方の名前が入っていないと思います。

<羽石> 理事会までに修正させていただきます。

<太城> アンケートでメールアドレス記入等の欄があり、もう何年も実施されてきて、データも蓄積されていると思うのですが、こちらからの案内は送っているのですか。

- <羽石> 引き継ぎでそちらのデータもいただいております、今回も送るかたちで考えております。
- <飯野> 外部協力者のところなのですが、土屋ホーム様の記載が必要なのでしょうか。
- <羽石> 修正いたします。
- <鈴木> 参加員数計画なのですが、総数1100人と記載されているのですが、もう一度委員会で精査しなおした方がよいと思います。1000人を呼ぶことに関して、主に30代から50代と限定している部分もありますし、1000人ってもっと幅広く呼ばなければいけないところもありますし、30代から50代をメインターゲットとして1000人呼べる自身があるのであればかまわないと思うのですが、そんなことをいつている状態になってないと思いますので、もっと幅広く、小学生からおじいちゃんおばあちゃんまで、公益社団法人という名前もありますし、さらに視野を広げて動員計画を作りなおした方が私はよいと思います。
- <小瀧> 講演内容のところなのですが、目標を成し遂げようと努力するターゲット世代とあるのですが、それが30代から50代との認識でよいのですか。このあたりの講演シナリオをみるともっと若い世代、10代20代がこれから活躍していくために意識改革をしていくという感じに受け取れます。目標とターゲットがずれているのかなと思います。
- <羽石> 委員会にて精査させていただきます。
- <豊崎> アナウンサーの効果というところで、アナウンサーの方と葛西氏の事前打ち合わせの計画はあるのでしょうか。葛西氏の魅力をどれだけ引き出せるかという観点でアナウンサーの役目や役割をどの程度考えられているのか説明していただきたいと思います。
- <羽石> 打ち合わせの計画なのですが、現状は我々が土屋ホームとの打ち合わせを進めている段階でして、アナウンサーと葛西氏の打ち合わせは審議がとおってからの3月の中旬を予定しております。またアナウンサーの役割、効果なのですが、アナウンサーがいるかいないかの観点では、絶対にいる方がよいと考えております。その理由は議案に記載させていただきました。具体的な役割は、まず葛西氏自身、講演があまり上手ではないということで、一方的な話にならないためにも話すことに対するプロが必要であるかと考えます。また講演に来られた市民の方の質問を葛西氏にするのですが、そこに関してよりよい回答を引き出せるのではないかと考えております。あと、葛西氏がうまく話せなかった時のフォロー役として、会場の反応をみながら臨機応変に対応していただく役割等も考えております。
- <小瀧> ポスターなのですが、写真にいろいろなメーカー名があるのですが、

コンプライアンスは大丈夫でしょうか。

<羽石> 写真に関してなのですが、先方からこちらを使用してほしいとの話があり、使用しています。コンプライアンスについては大丈夫だと認識しておりますし、細かくは法令会計審査局の方になります。

<金> 予算の中に横幕がはいっているのですが、デザインはどこになるのかなど。それと各地会員会議所向け案内文が理事長、専務、メンバーと3つあるのですが、うまくひとつにまとめられないのかなと思うのですが。あと参加者事前の登録なのですが、これは一人ひとりするのか、代表者名、会社名をいれて何名とするのか。チラシの裏面と申し込みフォームで異なりますので統一した方がよろしいかと思えます。

<羽石> 横幕デザインにつきましては早急にデザインを作成します。案内文については、まず理事長にだして、専務にだして専務から各メンバーあてに案内文を流していただくというかたちで3枚になると考えております。申し込みにつきましては早急に整えます。

<飯野> 参加員数計画なのですが、ポスターやチラシの配布等ですと目標に達するイメージが湧かなくて、土屋ホームさんにポスターやチラシを渡すとかのかたちになっていないように思います。せっかく100万の報酬を払っていただくのですから、たとえば土屋ホームさんの住宅展示場にポスター、チラシを貼っていただく、また勧誘していただくだけでもつながると思います。あとは各複合施設についても1枚ずつ配りますとなっていますけど、複合施設の広さに対して1枚で効果が期待できるのかなと思いますし、一律1枚ではなくメリハリをつけて調整していただいてここからはこれくらいきていただくとか、根拠は難しいですがそういったものもつけていただくと、目標に対していけそうだとかみえてくるのではないかと思います。

<羽石> 土屋ホームさんの方なのですが明後日、私と委員長で北海道の本社へ打ち合わせに参りますので、その際に確認させていただいて議案の方に反映させていただきます。あと、枚数等の件なのですが、委員長経験者の方にもう一度確認、相談をして、効果的な配布というのを枚数の増加も含めて検討の方をさせていただきます。

<小瀧> 礼状なのですが、土屋ホームさんと葛西氏に対する礼状の文面がほとんど同じでして、葛西氏あての礼状にも貴社のご助力いただきました賜物でありますと記載されているのですね。礼状なので題名とかは必要ないと思います。神風ジャンパーにご参加いただきましてこのこの文言も必要ないかと思えます。もうすこし文章を精査していただいて、お礼をすることを明確に綴っていただきたいと思えます。

<羽石> 精査の方、させていただきます。

<飯沼> 1000人の動員というところで、10代等はずす理由に理事会の承認が



いつとかというのは理由にならないと思います。前回の理事会においてポスターの配布先にハンターマウンテン、エーデルワイスをいれられたと思うのですが、そういうのは子どもにアプローチするには非常によかったと思いますし、若い世代にもひろげるかたちでポスターの方もイシザキスポーツの方に10枚を配布とするならば5枚をエーデルワイスに配布する等、このあたりを私の方からもみなおした方がよろしいかとの意見です。あと葛西氏はお話があまり上手ではないとのことで、アナウンサーの役割が非常に重要になってくるかと思えます。我々がなにをしたいか、何を市民につたえたいのかということは今一度アナウンサーに落とし込み、綿密な打ち合わせをしたうえでのぞまれた方がよろしいかと思えます。

<羽石> 委員会に持ち帰って検討させていただきます。

<澤畑> 質問なのですが委員別役割表にある運営マニュアルはどこにあるのですか。

<羽石> 議案にはついてありません。

<澤畑> 導線図とかもみて思うのですが、イメージとかはできていますか。

<羽石> イメージなのですが、正直まだ明確にはできておりません。

<澤畑> 1000人を計画していて、1000人以上来るかもしれない、逆に500人來ないこともあるかもしれません。もし来なかった場合とかも想定しているのかなど。この時はこうしよう、こうなった時はこうしようだとかのところまで作り込まれていないといけないと思うのですね。来月が審議で本事業は150万という宇都宮JCの中で一番大きな予算を使用する事業です。審議の時はもう微調整の段階で、足で稼ぐ動員を主軸にして動く月だと思うのです。なので、この1月の段階でこのあたりは完璧にしておかなければいけないと考えます。1000人呼ぶという委員会としての想いややる気が議案から感じられません。こういったことがしっかりしていれば、イメージができていながら議案から感じるわけです。そうすれば動員計画からポスター配布先までもっと考えられると思います。すべてにおいてつながってくると思いますので、今それができていなかったら動員は難しいと思います。1000人を呼ぶということは安全性等も考えなければいけませんので大至急やっていただきたいと思えます。

<須山> まずは澤畑副理事長のいうとおり気迫だと思うのですね。あと方向性を見失っていると思います。細かい部分でいくとポスターですね。プロフィールが記載されていますけど必要ないのではと思います。皆さん葛西氏のことは存じていると思われまますので。神風ジャンパーの挑戦とうたっていますが、シナリオにはあまりふれられていないように感じます。シナリオはどこかの講演のものをテープにおこした感じですか。

<羽石> 葛西氏の著書を参考にさせていただきました。

<須山> 羽石常任としては、本の内容をつたえたいわけではないじゃないですか。自分たちのつたえたいことがシナリオに盛り込まれていないと感じられます。委員会として何がつたえたい、どういったメッセージを、講演をとおして市民につたえたいのかという部分をシナリオに反映されるとよいと思います。そこが根幹だと思いますのでお願いします。ポスター配布先について皆さんからご意見でしたが、CSR企業に110枚配布しますというのは、すごくいいなと思います。ぜひそういうところをまわる時に拡大の話を同時にされるのがよいと思います。せっかくまわるのであれば、講演会の紹介だけでなく宇都宮JCがこういった活動をしていますとポスターやリーフレットができていれば使用されるのがよいかと思います。あとポスター配布方法についてなのですが400枚と記載してありますけども本当に研修委員会だけでいいのか疑問ですね。鈴木常任がいったとおりの時間のないなかで配布することができるのかどうかということも不安だと思いますので、他の委員会に協力を仰いでもよいと思います。何日かポスター配布のスケジュールを組んでいただいて、宇都宮JCの事業として全員で取り組んでいかないとよくないか、あるいはもう少し業者と打ち合わせをしてよりよく修正をしていただきたいか、あるいは飯野常任からでた土屋ホームさんに対して協力を上げないか、あるいはよいヒントだと思うのですね。そちらの業者会も利用できないか、あるいは飯野常任は今この例会を実施したとしたら何人来ると思いますか。

<羽石> 正直、500、600名なのかなと思います。

<須山> 鈴木常任は何名だと思いますか。

<鈴木> 300人。

<須山> 飯野常任はどうですか。

<飯野> 400から500位かなと思います。

<須山> やはり1000人をしたまわるのは、現状ではおそらくそんな感じになるのではと思いますので、精度をもっと高めていっていただかないといけないですし、もっと細かな部分を積み上げていっていただかないといけないと思います。次の理事会までがポイントになってくると思いますので、しっかりと頑張ってください。議案の内容がいろんな方向に向かいましたので、その度に修正加筆を繰り返されたと思うのですが、一度上から議案を読んでもらって余計な部分をのぞいていっていただきたいか、あるいは飯野常任には、今日もお話ししましたが増淵委員長には厳しく接していただいて絶対にここは1000人やるぞと、今までに宇都宮JCで150万ものかけたことのない予算をかけてやる研修例会なので成功させたいと皆さん思っていますので、まわりの力もかりながら進めていただければと思います。

協-03 4月 郷土愛醸成例会 開催計画並びに予算(案)について  
協議資料に基づき、鈴木常任理事より資料の読み上げ。

<中島> 気高い愛国心とはどういったことですか。

<鈴木> 本事業は日本が大きく変化したと思われる、戦前、戦後に着眼して、その時代の歴史について学ぶなかで、教育等にふれ、骨抜きとされた経緯を知っていただいたうえで、参加者に日本人としての誇りを再確認していただく。これが目的となっていて、そのなかでこの事業を展開させるわれわれ宇都宮J.Cはより高い愛国心を持つことでまちづくりに発展させることができると考え、気高い愛国心と表現させていただきました。

<中島> まず、愛国心のもとで郷土愛が認識できるかということが大切だと思うのです。愛国心というのは心であり、郷土愛というのは愛なのです。心と愛は同じではないですね。日本の歴史を学んで日本を好きになろうという意味合いで愛国心という言葉を使用されていると思うのです。郷土愛というものを包括する言葉は愛国心ではなくちがう言葉なのです。心と愛がちがうという考え方によるものなのですが、その観点から愛国心を養うために高橋先生を呼ぶというかたちなのか、郷土愛を醸成する意味で高橋先生なのかという点を一度整理した方がよいと思います。そのひとつのツールとして教育を使用するのであれば、教育から郷土愛は醸成できますか、という疑問点がでてくると思います。骨抜きにされたという表現がありますけども、教育の話でいえば、日本の教育の根幹となるのは何かという話になるじゃないですか。日本の教育の根幹となるものは何だと思いますか。

<鈴木> 修身教育ですよ。

<中島> 教育勅語ですね。教育勅語を取り上げられたから骨抜きになったのです。その教育勅語をもって郷土愛にもっていくのは難しいです。なので、目的の設定が難しくなっていますので言葉をもうすこし考えた方がよいかと思います。郷土愛、宇都宮をもっと好きになる人財をだしたいということをいいたいのだと思うのですよ。それはよいと思うのですが、たどりつくルートがちがうのかなと思います。

<鈴木> 考え方のちがいもあるのかもしれませんが、この例会の考え方としては日本という国に誇りを持ってない人は地域を愛することはできないと。よってその文化を大切にしたい地域づくりということでこのかたちをとらせていただきました。郷土愛に持っていかは悩んでいるところなのですが、考え方としては、もともとは国なのでそこを突き止めていくと愛国心になるというのは当然だと思いますし、それを、決定はしていませんがDVDやワークショップ等を持ちいることでまちづくりをめざす人が誇りを持った素晴らしい地域にしようというかたちの事業なのです。愛国心と郷土愛はつながってはいないかもしれませんが、考え方によってはつながっていくと思います。そういったかたちでこの議案の目的、背景を我々は作成させていただいています。教育勅語の親を愛しましょう、感謝をしましょうといった部分、そこをもっと

幅広く考えたらその地域を愛そうといったところにもつながると思います。

<中島> 日本を好きという気持ちから宇都宮が好きという気持ちにつなげるためにどういった手法をとりますか。

<鈴木> まずその歴史背景をしっていただく。そのなかで大きく変化したものも多々あるかもしれませんが、国の歴史をしっていただいたうえで、宇都宮の歴史におろしていき、そこをみていただくことで戦後、復興を遂げた先人たちのたゆまぬ努力を理解した上で、これから我々はどのようにしてその想いをつないでいかなければいけないのかということが我々のまちづくりにつながっていくと考えます。

<小瀧> 今の説明であるならば、講師が適任ではないと思います。日本の歴史をしったうえで地域におろしていくというのではなくて、逆に地域の歴史から学んでいかないと、自分の地域が好きだということから愛国という、国を愛することにつながるのではないかと思うのです。国の歴史を全般的に学ぶよりも地域の歴史から学ばないと、と思います。

<金> 横幕なのですが、誤字がありますので修正をお願いします。

<鈴木> 修正します。

<飯野> 高橋先生を講師にして事業目的を達成につなげるということなのですが、講師の検討資料は添付されているのですが、それ以外に郷土愛につなげていくためにどういった手法を検討されたのかそのあたりを教えてくださいたいと思います。

<鈴木> 手法に関しましては、戦後の考え方はいくつかありまして、そのすべての入り口を持った講師のなかで話を聞いていただこう、そのなかで考えていただこうという手法等もありました。委員長が5、6団体のセミナーに足を運び、アドバイスをいただいた結果このかたちが一番適切だろうという意見が最も多かったのでこの手法をとらせていただきました。

<飯野> 今回は講和を聞いて、それについてディスカッションをしてグループで発表をしましょうという手法だと思うのですが、たとえば聞くことをメインにするだとか等、いろいろあるかと思うのですが、それは委員長がいろいろな方にお話を聞きして最終的にこれに落ち着いたということなのですが、他に具体的な手法としてどういったものがあがっていて、どこからこれを選択されたのかというあたりを、教えてくださいたいと思います。

<鈴木> 講話だけというかたちも考えさせていただきました。ただ、講師の話聞くだけではなくワークショップで参加者と我々がコミュニケーションをはかりながら、参加者自らが考え、意見をだしあうことにより、いろいろな考えがあることを認識するというのもふまえて、このしつらえを取らせていただきました。

- <飯沼> 質問なのですが、ロードマップの最終的目標はどのように想定されていますか。
- <鈴木> ロードマップは2015年からの5年計画でして、その5年間の総括をした提言書を作成し、市、行政、団体等に提出するというかたちが最終目標です。
- <飯沼> それはあくまで地域の行政を対象としているのでしょうか。
- <鈴木> まず我々としては地元からスタートです。この5年計画が延びることによって、国までいくことも可能です。
- <飯沼> J C 自体が明るい豊かなまちづくりという地域の方を向いているというなかで、この施策の項目だけを見ると、どちらかというと国家レベルでの大きな部分を感じたものですから、そのあたりがどうなのか質問させていただきました。
- <小瀧> 同じことなのですが、郷土愛であれば国の歴史を学ぶ前に地域の歴史を学んで地域愛を育むことの方が重要なのではないのでしょうか。国の歴史は学ぶ機会がたくさんあると思うのですが、地域の歴史はなかなか学ぶ機会がないと思います。郷土愛であれば郷土を愛する地域愛を醸成するような内容にしていきたいと思います。
- <鈴木> この議案のなかで我々が訴えているのは、まず国の戦前、戦後の歴史を学んだうえで、最終的には郷土愛となっていますが、歴史観の啓発を目的とすることが大きい部分でして、その歴史観から郷土愛を育んでいくのが例会の目的です。
- <小瀧> それでは、事業目的のその歴史観から郷土愛を育みまちに誇りを持つ人財の育成を目的といたしますという項目を精査していただきたいと思います。
- <須山> まず、方向がぶれてしまっているからいろいろな意見を受けていると思うのですが、所信に何を書いているかといいますと、歴史を深く学びましょうと、そこは捉えているのですが郷土愛の醸成につながる取り組みを調査、研究し発信していくと。今の段階ですと郷土愛に偏りすぎています。お願いしたいことは、つながる取り組みを、歴史をしっかりと学んでいただいて、醸成につながる取り組みを調査、研究、発信し、これでまちに誇りを持った市民を増やしていきたいということなのです。そこに主軸をおいてもう一度取り組んでいただきたいと思います。飯塚委員長に作成していただいた事業計画もみましたが、おなじことがしっかり書いてありますので、そこにもう一度照らし合わせて取り組んでいただければ答えはでてくるのかなと思います。ロードマップについてもしかりだと思います。ロードマップにコメントをするならば、落とすところは何かと。誇りの持つ人財を育成するためには、その何年後でもよろしいのですが、委員会としてはこうすれば誇りの持つ人財が増えるのではないかと考えてい

ただければと思います。

協-04 5月 わんぱく相撲例会 開催計画並びに予算（案）について  
協議資料に基づき、羽石常任理事より資料の読み上げ。

- <金> まずは、本年度の工夫というところを皆様にご説明ください。
- <羽石> まずはダンスについてなのですけども、事業目的にあります相手を思いやる気持ちですとか、礼節を身につけるということに対して、本線のはじまる前に和太鼓とダンスをみていただこうと思っています。めんこ、けん玉の体験コーナーにつきましては、例年相撲で早く負けてしまった子どもが受付で手形スタンプしていたりすると思うのですが、それだけではなくよりメンバーとふれあい、礼節、言葉使い等を学べるよう、しつらえとしていれさせていただきます。
- <太城> ビジター5名というのは、どのような根拠からでしょうか。
- <羽石> 特に根拠がありませんので委員会に持ち帰って精査させていただきます。
- <鈴木> 青少年育成委員会として本年のわんぱく相撲、最も重視している部分はなにかですか。
- <羽石> 本線の滞りない運営を重視しています。
- <小瀧> わんぱく相撲が第34回、非常に歴史のある大会なのですけども、議案をみると、ただ34回積み重ねてきた議案を使い回ししているだけのような感じがうけます。根本的なわんぱく相撲の開催趣旨というものを理解したうえで議案を作成していただきたいと思います。
- <飯野> 本年度の工夫と期待される効果の部分なのですけども、ストリートダンス選手権の小学生の優勝チームを招いてということなのですけども、和太鼓のキッズの寄せ太鼓とおなじようなものが2つきて、どの程度効果があるのかということに疑問があるのが1点と、5月24日だと5月場所の開催の期間中なので力士の方は難しいのかなと思うのですが。過去の例をみると力士の方を呼べたりすると非常に評判がよいので、そのあたり工夫があるとよいと思います。
- <羽石> 委員会に持ち帰って精査します。
- <飯沼> 背景なのですけども3行目の成長するための糧をなります、の修正をお願いします。あと、最後の感謝の気持ちを持つ等の、等の文字、事業目的も同じく等の文字がありますが、初上程だということもあるとは思いますが、ここに真摯に向き合っていたら、こんな誤字もでませんし、等などの表現にならないと思います。より本質的な背景、目的となるよう、委員会でしっか

り精査してください。

- <太城> 工夫と効果の部分で1番しか本質をついていなくて、2番、3番、4番はアトラクションですよ。めんこ、けん玉は子どもの暇つぶしですよ。やる意味がまったくないかと。本質のところを考えていないと感じますので、もっと本質を考えてください。
- <小瀧> 新しいことを一生懸命しようと思すぎて、つねに新しいことをつぎ足していかないと駄目みたいな感覚になってしまっているのが非常に危険な感じがします。例年と同じ内容だけど、さらによいものにしますというのもよいので、もっと根本的な開催意義を考えていただきたいと思います。
- <亀井> 理事長の所信のなかにあるのですが、より幅広く子どもたちが参加できるようにとのことでそのような工夫ができたのかな、と思うのですが手法にかたよりすぎているところを感じますので本質的なところを考えていただけたらと感じました、
- <金> 参加動員に関してなのですが、本年度の工夫やより効果的なものと考えていただきたいと思います。例年をみていると参加している小学校や団体が固定化されているのかなと感じますので。
- <鈴木> 本線を重要視しているわりには、この議案をみるかぎりでは見当違いになっているのではないのかなと思います。前年度参加者は何名いましたか。
- <羽石> 約230名だと存じております。
- <鈴木> 約230名に20名プラスしたという考えのなかで取り組みの時間等は大丈夫なんでしょうか。
- <羽石> 今のところ可能と判断しております。
- <鈴木> その判断をされるということは、取り組みのタイムスケジュールができてないとそのシミュレーションができないと思います。砂かぶり席は本当に可能であるのか検証したうえでこれをだしているのかという部分を教えてください。
- <羽石> 砂かぶり席は可能であるのかは、陽南道場や施設の方に相談して確認の方はとれております。
- <鈴木> そうすると子ども専用席からの第1、第2待機場所の移動等も構築していかなければいけないと思います。あとは本線重要視ということであれば、導線等すべてをいったんみなおすべきだと思います。
- <羽石> 早急に確認の方、させていただきます。

<中島> 事業計画なのですが、10行目の自分の体ひとつを頼みとする白熱した真剣勝負は、勝利することで得られる自信、敗北の悔しい経験から得られる負けても立ち上がり、勝つために努力する姿勢を子どもたちにもたらし、ということをやるといふことなのですね。これがどこに表現されているのかわかりません。事業計画に記載されていることは必ず達成されなければいけないことですから、考えなければいけないことですし、そういうところに本年の工夫等がはいつてくるのではないかと思います。事業計画は委員長が一生懸命に書いているのですから、これが委員長の委員会への想いとなるわけです。こういったことを教えてあげればよいと思います。

<鈴木> わんぱく説明会についてなのですが、そのしたに委員会担当割説明がありますが、わんぱく説明会の部分ではそのあたりが考慮されているようにみえませんが、わんぱく説明会の項目はすべて全員で把握するということなのでしょうか。

<羽石> 委員会にて精査、確認させていただきます。

<鈴木> こういったところから、委員長にはわんぱく相撲をわかってほしいと思います。

<須山> 1番伝えたいことは中島副理事長のいつてくれた事業計画の件と、皆さんがいわれたことを真摯に受け止めていただきたいと思います。正副の中でアトラクションはやめたほうがよい、本質をついてないのではないかとの話をしたのですね。もつたわってなければ羽石常任にはもうしわけなかったのですが、それでもどうしてもメンコやりたいとかありましたら正副にきていただいて想いをぶつけていただければな、と思います。細かい部分で予算のところなのなのですが、70万予算がありますが一つひとつの項目に対して検討されましたか、という部分を考えていただきたいと思います。たとえば相撲場使用料2770円、これは本当にあそこでないとだめなのでしょうか。亀井副委員長にもいつていただきましたが、所信にも今までの手法にこだわらず動員をはかりたい。じゃあ500人くることとなったらあそこではさばききれませんよね。そうするとどうするのか。簡易土俵を買ってどこかの体育館でする方がよいのかもしれませんね。冊子とかトーナメント表もデジタル化してはどうかだとか。いろいろやりかたはあると思います。かわらなければいけないところとそうでないところがありますので、一つひとつを大切にしていればよいと思います。

#### 14. 報告依頼事項

報-01 3月研修例会 承認済み対外配布資料について

<金> ご一読ください。



報-02 2015年度 年間公式スケジュールについて

<金> ご一読ください。

報-03 2015年度 対外出向者（案）について

<金> ご一読ください。

報-04 賛助会員について 案内文（案） 申込書（案） 個人・法人

<金> 前回の臨時理事会の際に、皆さんに内容を確認していただいたのですが、総会におきまして賛助会員等の金額の修正がでた時点から案内をかけていきますので、こちらの方確認をお願いします。

報-05 災害時における緊急連絡網

<金> ご一読ください。

報-06 災害時における初動マニュアル

<金> ご一読ください。

報-07 その他

とくになし

## 15. 監事講評

<篠崎>

政策委員会の飯塚委員長オブザーブいただきありがとうございます。今回出席いただいて、生の声を聞いたということで、委員会に持ち帰って次の理事会にいかしていただきたいなと思います。今日も冒頭から人財育成について話がありましたけども、私の経験からおつたえしたいことは、私は昨年ある会議に出席しておりました。その会議中にある方からラインがはいってくるのですが、その内容は議案に関してなののですが、私には直接関係のない話題だったのですよね。なぜそういったお話をされるのかはその時はわからなかったのですが、後々教えていただいたことは、この質問をすることによってお前は考えるだろうと。そして考えることによってあなたは成長する。成長することによって、伝えられると。会議中にラインをすとかがどうかではなくて、あらゆる面で当事者ではなくとも考えることができると思うのです。こういったことも参考にさせていただくと、と思います。各議案に関しまして須山理事長からコメントをいただいておりますが、そのコメントを真摯に受け止めていただいて皆さんにつたえてほしいと思います。会員拡大に関してなのですが、議案の中でビジター人数だとかを議案の中でふれていただいております。皆さんよく考えていただいていると感じ、安心しているところではあります。澤畑副理事長と小瀧特別委員長がしっかりと受け止めていただいて、やらなくてはいけないことをやっていただきたいなと思います。そうすれば結果はおのずとついてくると思いますので、お願いします。あと、大成功するとか幸せになるということなのですが、どうしても成功、荣誉、勝敗などを目的とするとどこかでぶれてしまうと思いますので、

J Cとしての本質、奉仕、友情、修練を忘れることなく運動を続けてほしいなと思います。  
以上を監事講評とさせていただきます。ありがとうございました。

15. 閉会宣言

<金>

公益社団法人宇都宮青年会議所  
2015年度 第1回 常任理事会議事録

議長：( 専務理事 ) 金 克彦

議事録作成人：総務委員会